

長野県 チャイルドライン推進協議会 [長野県推薦] (長野県上田市)

http://www14.plala.or.jp/JULY-2011/

代表者名：清川 輝基 団体構成員数：198名

長野県チャイルドライン推進協議会は、現在4団体で構成され、専用電話を通し子供の声を受けることによる子供の支援を行っています。電話に寄せられた子供の声や子供の現状を社会に伝え、子供達が健全に育つ社会環境を確立していくことを目的とし、連携、推進し合い「チャイルドライン」を運営しています。

チャイルドライン推進協議会では、活動の周知のために県内の小・中・高生の児童・生徒全員にカードを配付しています。また、チャイルドラインが開催する受け手養成講座は、プログラムを一般にも開放し、長野県内の多くの方が受講しています。

平成28年に長野県子ども支援センターが開催した研修会では、チャイルドラインの傾聴ノウハウやチャイルドラインから見た長野県内の子供たちの様子について、協議会事務局長が講師を務めました。

信州大学教育学部や長野市立中学校PTA講演会に出前講座を実施するほか、毎年開催するイベント「ながのこどもわくわくフェスタ」で中高生エリアの運営を担当しています。

子供から寄せられた電話の案件によっては、専門機関につながる場合もありますが、チャイルドラインは「解決」ではなく「傾聴」を主としています。

電話の受付件数は年間10,000件を上回っており、子供たちの心の居場所となっています。



「ポスター」



「小学生向け配付カード」



協議会パンフレット

■選考委員のコメント

子供に関わる各種専門家・機関と密接に連携しながら、年間1万件以上の子供たちの声を受け止めてもらえました。

[受賞者からのひと言]

長野県では、行政との協働事業として4団体（ながの・すわ・うえだ・佐久）のチャイルドラインが月曜日から土曜日の6日間16:00～21:00（金曜日、23:00まで）子供からの電話を受けています。養成講座を受講した「受け手」ボランティアが子供の電話を受けています。相談電話と違うのは、子供の主体性を大切に「子供の気持ちに寄り添う」電話となっています。

長野県の協力によって、長野県内全ての子供たちに毎年25万枚余のカードを配布しています。

困っている、悲しい、どうしたらいいの？そんな、気持ちを何よりも大切にして、しっかりと聴くことで、子供たちの心が少し軽くなり、自分の力で一步を踏み出すことができたらと願い、子供の声に耳を傾けています。

長野県チャイルドラインは子供たちの今に寄り添っています。